



“青い池”の住人

津軽白神森林生態系保全センター 専門官 有本 実



①青池



②イワナ



③ニジマス



④神の子池



⑤オショロコマ

今年3月に北海道新幹線が開通し、より短時間で津軽海峡を越えられるようになりました。北海道にはヒグマが、本州にはツキノワグマが生息しているように、この海峡が動植物の分布の境界線になっている種

が多く、『ブラキストン線』と呼ばれています。今回はこのブラキストン線を挟んだ南北に位置する“青い池”に棲む魚をご紹介します。

まずは南側、青森県深浦町は十二湖の「青池①」です。多くの観光客が訪れるこの池の展望デッキでは、決まって「アッ、魚いる！」と歓声が上がりまます。何だろう・・・と写真を撮って確認すると、イワナ②とニジマス③の2種類いることが分かりました。明治期に日本に移入された外来種のニジマスが、いつ頃ここに放流されたかは不明ですが、イワナを追い回すそぶりも見せずすっきりこの池の住人として馴染んでいます。ニジマスは背中黒点、イワナは白点が目立ちますので、行かれた際はぜひ両種を見比べてみて下さい。

そして北側、北海道は道東の摩周湖北東、針葉樹の森にひっそり青い

水を湛える、その名も「神の子池④」です。青池とはまた違ったコバルトブルーに輝き、オショロコマ(⑤:別の場所で撮影)が生息しています。イワナ属ですがイワナよりさらに寒冷地に適応した種で、ブラキストン線より南側にはいません。橙色の腹に朱色の斑点も鮮やかなこの魚が神の子池を泳ぐ様子は、池の名前の通りまさに神秘的です。阿寒湖や屈斜路湖周辺を旅行される際は、ぜひお立ち寄り下さい。最近パワースポットとして人気上昇中です!

北海道は海沿いの名もなき原生花園や川沿いの名もなき湿原など、ガイドブックにも載らないありふれた場所の自然でさえも濃厚です。今年新幹線でブラキストン線を越え、本州とはひと味違う北の大地の動植物相を満喫してみませんか?